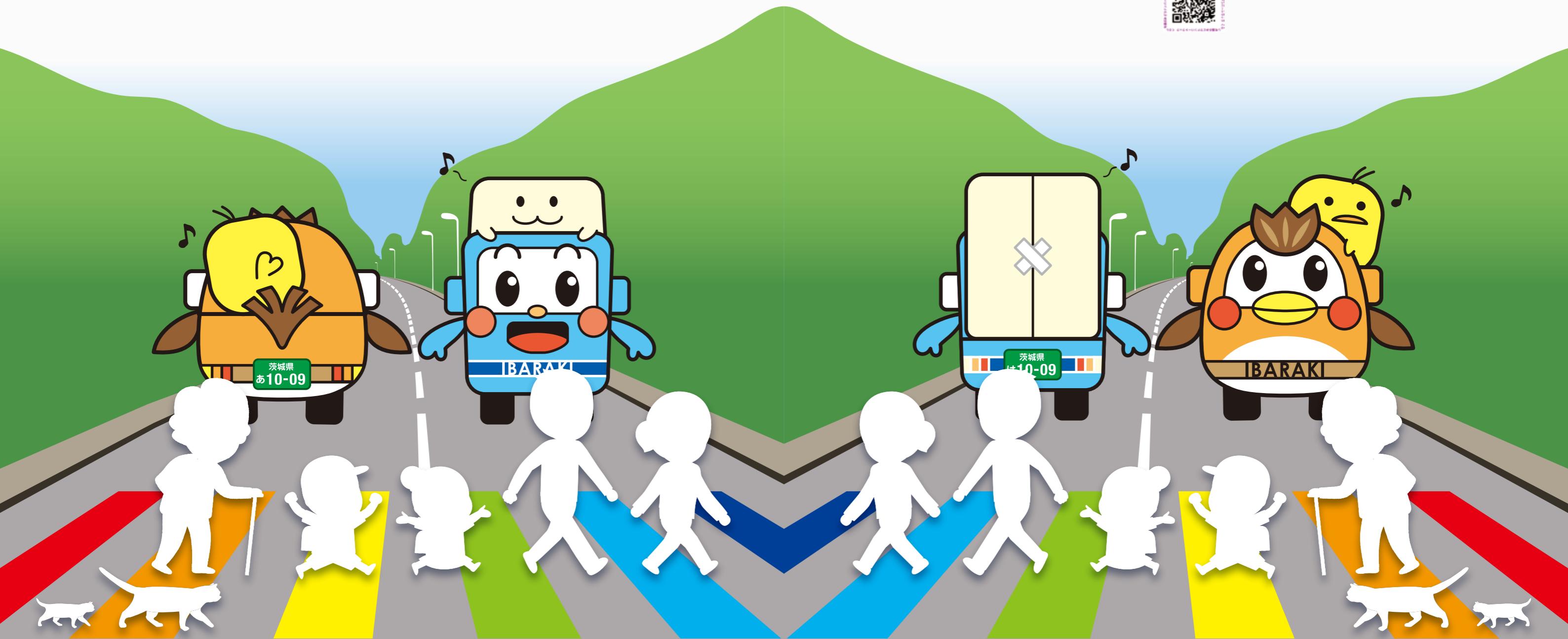


レインボーウェイ

RAINBOW WAY 2025 HEARTFUL
COMMUNICATION MAGAZINE

レインボーウェイ
RAINBOW WAY 2025 HEARTFUL
COMMUNICATION MAGAZINE



一般社団法人 茨城県トラック協会





P.04 茨城のくらしと産業を支える物流最前線

ガソリンなどの石油類やLPガスの輸配送で地元のくらしと産業を支える、中核油槽所や中核充填所の登録も

P.06 働きやすい職場認証で労働環境改善を推進

安全第一の事業運営を実践、ヒューマンエラー防止にサポート機器を積極導入、安全追及の延長として働きやすい職場認証取得

P.08 安全に取り組むトラック運送業界

鉄鋼や建築資材の輸送で荷崩れ防止などを徹底、毎月の安全会議で事故防止に努めGマーク認定取得で安全レベルを見える化

P.10 環境にやさしいトラック運送業界

SDGsで自分たちにできるのは環境への配慮、CO2を排出して事業をしていることもグリーン経営認証取得の理由

P.12 茨城の物流を担うエッセンシャル・ワーカー

高校3年生の夏に職場見学をして入社を希望、入社内定で準中型免許を取得
現在はフォークリフト作業とルートバス乗務、社内資格を取得したら大型車に
米川真穂(よねかわ・まほ)さん

昨年4月に新卒入社した2人はひたちなか市を中心に街の美化業務に従事
清掃作業や廃棄物の収集運搬で「きれいになった」という達成感が嬉しい
久我知輝(くが・ともき)さん
加藤颯真(かとう・そうま)さん

P.14 社会との共生

みんなで知恵を出し合って物流危機を乗り超えよう!
「持続可能なばらきの物流構築のための第2回共創セミナー」開催

P.15 会長からのメッセージ

くらしと経済を支える持続可能な物流をつくるには、
みなさまのご理解とご協力そして若い力が必要です
一般社団法人 茨城県トラック協会 会長 小倉邦義

写真:常陸国分寺中門跡(石岡市)

ガソリンなどの石油類や
LPGガスの輸配達で
地元のくらしと産業を支える、
中核油槽所や

中核充填所の登録も



石油類やガスは産業にも市民生活に欠かせない重要なエネルギーです。そのためこの事業者は発電機を備えていて緊急時でも供給を絶やさない中核油槽所（石油）、中核充填所（LPGガス）として茨城県に登録しています。またタンクローリーによる石油類やLPGガスの輸送ではドライバーが運転免許の他に専門的な国家資格を取得して配達しています。このように安全が重視される仕事ですが、安定供給に努め「地域社会に貢献する」を企業理念としています。

生用（レストラン、集合住宅など）、一般家庭で、タンクローリーや小型平ボディ車で配達しています。

石油類やガスは産業にも市民生活にも欠かせない重要なエネルギーです。そのためこの事業者は発電機を備えていて緊急時でも供給を絶やさない中核油槽所（石油）、中核充填所（LPGガス）として茨城県に登録しています。またタンクローリーによる石油類やLPGガスの輸送ではドライバーが運転免許の他に専門的な国家資格を取得して配達しています。このように安全が重視される仕事ですが、安定供給に努め「地域社会に貢献する」を企業理念としています。

LPGガスは、工業用（工場）や民

筑西市に本社のある事業者を訪ねて、どのような仕事をしているのかを聞きました。この事業者は様々な荷物を運んでいますが、その中でも市民生活や地元産業に不可欠な石油類やLPGガスの輸送を紹介します。

筑西市に本社のある事業者を訪ねて、どのような仕事をしているのかを聞きました。この事業者は様々な荷物を運んでいますが、その中でも市民生活や地元産業に不可欠な石油類やLPGガスの輸送を紹介します。

会社全体では175台のトラックを保有し、240人のスタッフがいます。輸送している荷物は様々で、たとえば自動車のタイヤでは工場から拠点に大型車で幹線輸送をし、また4トントラックで茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉の各県、さらに一部は東京や神奈川のタイヤ販売店、ガソリンスタンド、自動車ディーラーなどの配達もしています。

その他にも一般貨物を運んでいますが、ここではエネルギー関係の輸送・配達について紹介することになります。石油はタンクローリーでコンビナートからガソリンスタンドに運びます。また重油は一度、この会社のセンターに運び、工場や農家などに2次輸送をしています。灯油は一般家庭への配達もします。

この運送会社は地元の大手企業を担っています。筑西市の本社の他に古河営業所、土浦営業所、鹿島営業所（神栖市）、水戸営業所（笠間市）、北茨城営業所さらに福島県内にもいわき営業所、須賀川営業所があります。

働きやすい職場認証で
労働環境改善を推進



安全には従業員の健康が前提になります。健康診断などは当然ですが、インフルエンザの予防なども以前から会社独自で実施してきました。コロナが終息した現在でもマスクやアルコールの御手拭きを配布したり、夏には事業所に製氷機も置いています。有給休暇の取得も勧め、定年も7年前になくなりました。個人的な事情で2月に退職した人がいましたが、その前は75歳で3年前に辞めた人までさかのぼります。

このように退職者が少ない働きやすい職場ですが、さらに2023年には働きやすい職場認証（一つ星）を取得して若い人たちが働きたくないような会社を目指しています。

力を機器でサポートするという考え方です。しかし、デジタコでデータ管理するとスピードが出せないので、最初の2年間ぐらいはドライバーには不評だったようです。その他にも、昔から全ドライバーに携帯電話を貸与してきました。社内のコミュニケーションを図つて安全を確認したり、業務連絡をスムーズにして取引先にきめ細かなサービスを提供するためです。

筑 西市にあるこの運送事業者は、建築資材をメインにユニットバスや精密機械資材の配送をしています。保有しているトラックは30台で、ドライバーは32人です。
建築資材やユニットバスは、住宅メーカーの市内の工場から関東一円の建築現場への配達をしています。時どきですが山梨県や福島県の建築現場に運ぶこともあります。

この事業者は、会社を設立した当初から安全第一の経営をしてきました。そのため会社を始めた時からデジタルタコグラフ（デジタコ）を全車両に搭載し、その後2年後にはドライブレコーダーも導入しています。安全運転に取り組むドライバーの努

働きやすい職場認証制度は自動車運送事業者（トラック・バス・タクシー）への就職を促進するために、運送事業者の職場環境改善の取り組みを見える化する認証制度です。2020年8月に国土交通省が創設し、認証実施機関の指定を受けた団体が審査、認証をします。認証を取得するには、①法令順守等、②労働時間・休日、③心身の健康、④安心・安定、⑤多様な人材の確保・育成についての要件を満たす必要があります。認証には一つ星、二つ星、三つ星があり、最初は一つ星から取得して順次、二つ星、三つ星を目指します。

安全第一の事業運営を実践、ヒューマンエラー防止に働きやすい職場認証取得、安全追及の延長として働きやすい職場認証導入、サポート機器を積極導入、働きやすい職場認証取得

働きやすい職場認証制度は自動車運送事業者（トラック・バ

鉄鋼や建築資材の輸送で荷崩れ 防止などを徹底、毎月の安全会議 で事故防止に努めGマーク認定 取得で安全レベルを見える化



牛 久市にあるこの事業者は本社の他に石岡営業所（小美玉市）があり、鉄鋼や建築資材、道路に白線を引く塗料などを運んでいます。保有しているトラックは45台からトレーラまで合わせて94台で、



安全性優良事業所（Gマーク）は、①安全性に対する法令順守の状況、②事故や違反の状況、③安全性に対する取り組みの積極性の3項目の評価が一定の点数以上で、その他の必要な要件もクリアすると、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が認定する制度です。安全性優良事業所の認定を取得した事業所に所属しているトラックには「G」マークのステッカーを貼ることができます。Gマークの認定には有効期限があり、継続するには更新申請が必要です。街でトラックを見かけたら「G」マークが貼つてあるかどうかを確認してください。



ドライバーは70人です。
鉄鋼は板鋼と呼ばれるものやパイプで、川崎市（神奈川県）や市原市（千葉県）から土浦市や潮来市などにある鉄鋼製品を作る工場に運んでいます。建材は土浦市や牛久市、龍



ケ崎市から積み込んで、関東甲信越に運びます。遠い所では仙台などにも運んでいます。関東は主に建築現場に納品し、地方では建材問屋や建材の販売代理店などに運びます。
鉄鋼も建材も重量のあるものですから安全輸送が重要です。そこでこの事業者は固縛（こばく＝荷物を荷台に固定すること）ルールに基づいた作業を徹底して荷崩れ防止に努めるなど輸送品質の向上を図っています。また、輸送や配達工程にムリがないように労働時間の短縮も進めています。

会社役員、職長、配車担当者、整備担当者で構成する安全衛生委員会を毎月1回開き、そこで決められた内容などを翌週に開かれる全員参加の安全会議で周知するようにしています。取引先からのクレームや要望、作業手順などの変更点、事故防止などを話し合って安全対策を徹底しているのです。
そのような中で、2012年にはISO 39001（道路交通安全）を取得し、安全性優良事業所（Gマーク）認定も取得しています。



荷される荷物や、北海道からひたちなか港（茨城港常陸那珂港区）に運ばれてきた荷物を一時保管して地元の工場に運んでいます。また、建材は茨城、群馬、栃木の3県や、福島、仙台、御殿場などにも運びます。取り扱っている荷物の中では内装材が多く、納品先は建材問屋や建設会社の資材置き場などです。

フィルム製品はラップなどで、関東一円に輸送し、ロットの小さいものは全国ネットの小口積み合せの事業者に委託して運びます。

この事業者はグループ全体として



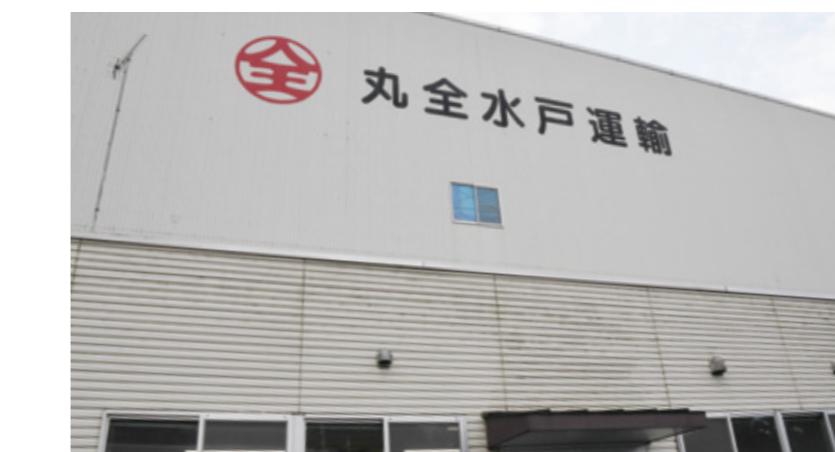
環境にやさしい
トラック運送業界



SDGsで自分たちにできるのは環境への配慮、CO₂を排出して事業をしてくることも

グリーン経営認証取得の理由

SDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まっています。17項目の中でもトラック運送事業者が取り組むべき優先項目は「エネルギーをクリーンに」や「気候変動への対策」などでしょう。トラック運送業界にもグリーン経営（環境負荷の少ない事業経営）という認証制度があります。グリーン経営はISO14031（環境パフォーマンス評価に関する国際規格）の考え方に基づいて、環境保全のために必要な項目や目標を設定し、一定レベル以上の取り組みをしている事業者に交通エコロジー・モビリティ財団が認証する制度です。



笠 関市に本社のあるこの事業者のグループ会社です。本社ならびに水戸営業所と高萩営業所などがあります。その他にも倉庫事業所などがあります。さらに関連会社を持っています。営業所も含めて保有車両数は16台で、工業製品をメインに輸送しています。また、グループの荷物としては輸入された建設資材や建材、フィルム製品、さらに農産物なども運んでいます。

工業製品は地元の工業団地から出



グリーン経営の認証取得に力を入れています。そのような中で、自社独自でも環境にやさしい運送事業に取り組んできました。グリーン経営は2022年に取得しています。

トラック運送事業として省エネ運転などに努力していますが、CO₂の排出をゼロにするすることはできません。またSDGsの中で自分たちにできることは環境にやさしい事業経営です。そこでグリーン経営認証を取得して、サービス品質の向上に努めているのです。

高校3年生の夏に職場見学をして入社を希望、入社内定で準中型免許を取得 現在はフォークリフト作業とルートバン乗務、社内資格を取得したら大型車に

米川真穂（よねかわ・まほ）さん



大手物流会社の神栖市にある事業所で働いている米川真穂さん。神栖市の出身で地元の高校3年生の夏に職場見学で訪問して就職を希望しました。高3の時に職場見学をしたのは福祉施設とクリーニング関係、そして物流の3社でした。その中で、ためらいなく現在の物流会社を選んだのは、自分の好きな仕事だったからですが、「両親の奨めもあつたから」と言います。実は両親もトラックのドライバーとして働いている「物流一家」なのです。



大型車やトレーラの免許も持っていますが、この会社には社内の資格制度があり、それに合格しないと大型車には乗務できません。そこで米川さんは、現在、大型車に乗務できる社内の資格取得に取組んでいます。合格したら大型トラックに乗務する業務につく予定です。「大型車に乗って仕事をできるよな」が良いからです。そこで、私も事務の仕事には向かないと言われていましたし、自分でも現場で体を動かしていた方が良いからです。

なぜ物流なのかと言いますと「両親が良い」からです。そこで、米川さんは「就職が内定したら普通免許だけではなく準中型免許も高校在学中に自分で取りました」。この会社では社内で資格を取得させる制度があるのです。入社後は会社から教習所に行かせてもらつてフォークリフトや大型車、トレーラ(牽引)の免許も取得しています。

現在の仕事は主に物流センター内のフォークリフト作業です。またドライバーとしての仕事では、ルートバンに乗務して引っ越しの荷物を運んだり、地元の大きな工場で構内の各職場にユニフォームを届けたりする業務もしています。



清掃作業や廃棄物の収集運搬で「きれいになつた」という達成感が嬉しい

久我知輝（くが・ともき）さん 加藤颯真（かとう・そうま）さん



清掃作業はひたちなか市内がメインですが、関東一円が現場の場合もあります。仕事内容によって、1人から4人ぐらいで作業をします。また、夏でもカツバを着て作業をすることもあります。仕事好きですが、「きれいになつた達成感が好きです」(加藤さん)。休日は「友達と遊んだり、1日ゆっくりとして過ごします」(同)。一方、アパート住まいの久我さんは「長期の休みの時には実家に帰り、家の仕事を手伝うこともあります」。仕事好きですね。

私は「長期の休みの時には実家に帰ります」。仕事好きですね。加藤さんは地元の出身で、現在も両親と同居し実家から通勤しています。「高校に求人が来ていたので現場を見学してこの会社への就職を決めました。この会社で親戚の人が働いていたことも入社希望の理由の一つです」と話しています。年齢的こともあります。年齢的などもあって、「まず中型免許をとつて、それから大型免許を取る予定」です。

物流といつても様々な仕事があります。一般の貨物を運ぶだけではなく環境関連の仕事をしている事業者もトラック協会の会員です。ひたちなか市のこの事業者は、皆さんご存じのパッカー車をはじめ、高圧洗浄車、乾式・湿式切替強力吸引車、路面清掃車、貯水槽清掃車など特殊車両を多数保有しています。ここで働いているのが久我知輝さんと加藤颯真さんです。久我さんは東京の大学、加藤さんは地元の高校を卒業して昨年4月に入社しました。

久我さんと加藤さんはこの会社の業務1課に所属しています。現在の仕事は主に街の清掃業務などです。久我さんは福島県白河市の出身で、都内の大学に行つていきましたが、この会社に新卒で入社しました。「実家はこの会社と同じように廃棄物の収集運搬や中間処理などをしている企業です」。小さな時から仕事の内



みんなで知恵を出し合つて物流危機を乗り越えよう！

マスコミでも取り上げられるようになった「2024年問題」。昨年4月1日からトラックドライバーの年間最大残業が960時間になりました。また、トラックに限らずバスやタクシーなどの自動車運転者は不規則勤務や長時間労働になりやすいので、「改善基準告示」で拘束時間や休憩・休息時間などの基準が設けられています。この改善基準告示が昨年4月から改正されました。これらによってトラックドライバー不足が促進され、荷物が運べなくなる危機が「2024年問題」です。

この「2024年問題」は、運送事業者や荷主企業の担当者など、物流関係者だけの努力では解決することができません。一般県民のみなさんも一体となって、持続可能な物流を構築していくことが必要です。このようなことから茨城県トラック協会では茨城県との共催で、一昨年12月に「持続可能な茨城の物流構築のための共創セミナー」を開きました。さらに昨年5月にも、つくば国際会議場で第2回共創セミナーを開催しました。

トラック協会と茨城県共催の他に、国土交通省関東運輸局茨城運輸支局、厚生労働省茨城労働局、トラック輸送における取引環境・労働時間改善茨城県地方協議会、一般社団法人茨城県経営者協会、茨城県商工会議所連合会、茨城県商工会連合会、茨城県中小企業団体中央会、茨城県倉庫協会、JAグループ茨城、全国農業協同組合連合会茨城県本部、茨城県消費者団体連合会、日本運輸産業労働組合茨城県連合会、公益社団法人全日本トラック協会の後援によって開催し、350余名の

人たちが参加しました。

セミナーでは茨城県産業戦略部の大竹真貴部長が挨拶。第一部では経済産業省商務・サービスグループ消

費・流通政策課長兼物流企画室長の大竹真貴部長が「物流の2024年問題」等への対応のテーマで講演。第2部では流通経済大学流通情報学部の大島弘明教授が「物流課題の解決に向けて企業に求められる取り組み」のテーマで講演を行いました。最後はトラック協会の小倉邦義会長が挨拶しました。



会場風景

茨城県産業戦略部
大竹真貴 部長経済産業省 消費・流通政策課
中野剛志 課長流通経済大学 流通情報学部
大島弘明 教授

小倉邦義 会長

会長からのメッセージ

くらしと経済を支える持続可能な物流をつくるには、みなさまのご理解とご協力そして若い力が必要です

一般社団法人 茨城県トラック協会
会長 小倉 邦義

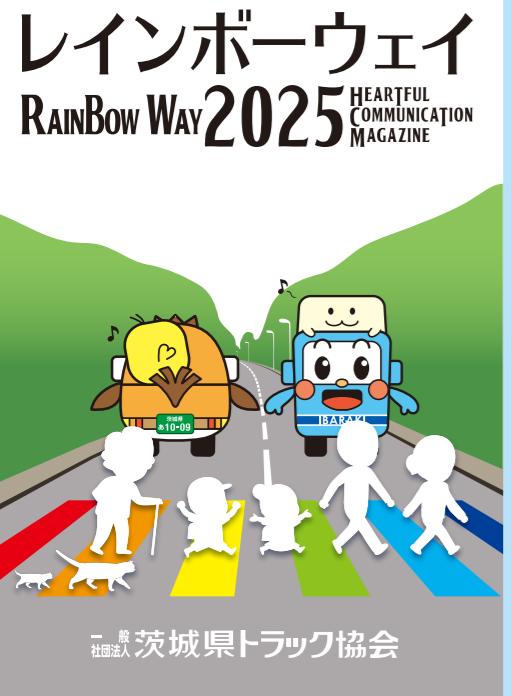


私たちトラック運送業界は、国内貨物輸送量の約90%を運んでいる基幹産業です。県民のみなさまの生活と、県内各企業の経済活動を支えるために日夜努力しています。また、大きな自然災害などが発生した時には、被災地や避難所に必要な物資を運ぶための緊急輸送も担います。そのため茨城県と茨城県トラック協会、さらに地域ごとにある13の支部も、それぞれの地元自治体と協定を結び、緊急物資輸送の要請に応えるようにしています。

しかし、「2024年問題」と言われますように、現在でも不足しているドライバーがより不足し、荷物が運べなくなる物流危機に直面しています。複数の研究所の試算によりますと、2030年には30~35%の輸送能力が不足するとされています。

この物流危機を乗り越えて持続可能な物流体制をつくるには、適正な運賃収受によって労働時間を短縮し賃金を上げることでドライバーを確保することが必要です。

また、一般にトラック運送業界は3Kなどと誤認されがちのことでもドライバー不足の一因になっています。「レインボーウェイ」は業界の実際の姿をみなさまに認識していただくために毎年発行しています。とくに若いみなさんは、物流が果たしている重要な社会的な役割を知っていただき、私たちの業界に入って力を発揮していただくことを願っています。



発行日 2025年3月31日

発行所 一般社団法人 茨城県トラック協会

取材協力 安立サービス 株式会社
勝田環境 株式会社
有限会社 サンロジスティックス
株式会社トマト
日本通運 株式会社 茨城支店鹿島港営業課
丸全水戸運輸 株式会社

制作 有限会社 物流ジャーナリスト倶楽部

スタッフ Design by maxDesign
Photo & Text by F.Morita
(写真の一部は取材先からの提供もあります)

一般社団法人 茨城県トラック協会

〒310-0913 水戸市見川町2440-1

TEL 029-303-6363 FAX 029-243-5936

ホームページ <https://www.ibatokyo.or.jp>

（無断転載禁ズ）

